

平成 19 年度 肉用牛の入門講座の概要



平成 20 年 3 月

(社) 山口県畜産振興協会

山口県畜産振興課

目 次

1	平成 19 年度肉用牛の入門講座開催要領	P1
2	平成 19 年度肉用牛の入門講座受講者名簿	P2
3	平成 19 年度肉用牛の入門講座の実施状況	
(1)	肉用牛の基礎講座	P3
(2)	現地研修	
	ア 長門市 M牧場	P4
	イ 萩市 N生産組合	P5
	ウ 岩国市 N牧場	P6
	エ 長門市 M牧場	P7
	オ 周南市 Kファーム	P8
	カ 下関市 T牧場	P9
	キ 美東町 Aファーム	P10
(3)	子牛市場視察・意見交換会	P11 ~ 12

1. 「肉用牛の入門講座」開催要領

1 開催目的

高齢化や後継者不足等により県内の肉用牛農家が減少する中で、肉用牛の生産基盤を維持・拡大していくためには一層の規模拡大を推進するとともに、新たな肉用牛農家の育成が大きな課題となっている。

このため、定年退職者や他産業従事者等を対象とした肉用牛経営を始めるに当たっての初歩的な研修会を開催し、肉用牛飼養に必要な基礎知識は実際の肉用牛経営の内容を知る機会を提供し、新たな肉用牛農家の育成・確保に資する。

2 主催者

山口県及び(社)山口県畜産振興協会

3 受講対象者

原則として、県内において新たに肉用牛経営を始めようとする者

4 講師

(社)山口県畜産振興協会職員、県職員及び研修受入農家等

5 開催方法

原則として、年間4回程度の研修会を開催し、肉用牛経営を開始する際に必要となる基礎知識等を修得するとともに、畜産農家における肉用牛飼養の体験学習や子牛市場視察等を行う。(1)開催時期 原則として、1回目:8~9月、2・3回目:9~12月、4回目:1月

(2)開催場所 山口県畜産試験場及び畜産農家等

6 研修内容

(1) 講義

肉用牛を飼養する際の基礎知識や県内における肉用牛経営の実態、経営開始に当たっての支援措置等について研修する。

(2) 現地研修

肉用牛農家の視察や実際に肉用牛の飼養管理作業を体験学習する。

(3) 意見交換

将来の肉用牛経営設計や今後の対応等について意見交換を行う。

(4) その他

受講者の要望等を踏まえ、必要と認められる場合には新たな研修項目を組み入れることができるものとする。

7 修了証の交付

所定の研修を修了した受講生には、修了証を交付するものとする。

8 受講者の募集

毎年度、広く受講生を募集するため、ホームページ・リーフレット等による広報や市町村・JA等と連携した募集活動を行う。

3 平成 19 年度肉用牛の入門講座の実施状況

(1) 肉用牛の基礎講座

- 場所：山口県農林総合技術センター畜産技術部（畜産試験場）
- 日時：平成 19 年 7 月 7 日（土）
- 参加者：9 名。関係者 19 名。
- 内容：
 1. 基礎講座
 - 「肉用牛経営について」畜産振興協会 清水 誠 技術主任
 - 「肉用牛の基本的な飼養管理について」畜産試験場 森 祐介 技師
 2. 種雄牛視察
 3. 放牧管理グループでの哺育、子牛育成、育成牛、放牧牛、肥育牛の飼養管理
 4. 牧場実習受入農家紹介
 5. 意見交換



基礎講座の様子



肉用牛経営の説明



種雄牛と凍結精液の説明



放牧管理グループでの研修

(2) 現地牧場実習

ア <長門市 M牧場>

- 日時：平成19年9月8日(土)
- 参加者：2名。関係者3名。牧場主。
- 内容：
 1. 牛舎構造、作業手順説明
 2. 妊娠牛房のボロだし
 3. 自給飼料作付け機械確認、意見交換



牛舎内説明



ボロだし作業



石灰による消毒



自走式モアの説明

4. 参加者の感想

低コスト牛舎に感心。人工授精まで行い、家族全員で協力している。
自給飼料の機械などは参考になった。もっと牛を増やしたい。

イ <萩市 N生産組合>

- 日時：平成19年9月15日(土)
- 参加者：3名。関係者3名。牧場関係者5名。
- 内容：
 1. N牧場の概要、農事組合法人の概要
 2. 繁殖経営・肥育経営の管理方法の研修
 3. たい肥処理技術研修
 4. 牛舎構造等の研修
 5. 意見交換



農事組合法人の概要説明



育成牛の飼養管理研修



ビニルハウス牛舎(分娩舎)



たい肥処理研修

ウ <岩国市周東町 N牧場>

- 日時：平成19年10月27日(土)
- 参加者：1名。関係者2名。牧場関係者2名。
- 内容：

1. 牛舎構造、作業手順説明
2. ポロだし作業、ノコクス
3. 経営開始の経緯と現状の経営内容の説明。意見交換



ポロだし説明



参加者実習



飼養管理方法説明



自給飼料確保

4. 参加者の感想

年間の収支など具体的な数字まで紹介していただき感謝。農家の話を直接ゆっくり聞くことができてよかった。

エ <長門市 M牧場>

- 日時：平成19年11月10日(土)
- 参加者：3名。関係者2名。牧場関係者2名。
- 内容：
 1. 牛舎構造確認、飼養管理方法について説明
 2. 和牛の改良について説明
 3. 耕作放棄地への放牧視察
 4. 意見交換
 5. 参加者の感想
 - 夫がサラリーマン、妻が畜産業という暮らしぶりは、安定的な給与と畜産の楽しみ、土地の有効利用が互いに補え合う。一つだけの欠点を他方が補う形は、理想的である。

オ <周南市 Kファーム>

- 日時：平成19年11月17日(土)
- 参加者：1名。関係者2名。牧場関係者1名。
- 内容：
 1. K牧場の概要
 2. 子牛の早期離乳技術、育成飼養技術研修
 3. 繁殖技術・肥育技術研修
 4. 牛舎、たい肥処理施設の研修



繁殖牛の飼養方法



育成牛



たい肥処理施設



低コストハウス牛舎

カ <下関市 T牧場>

- 日時：平成19年11月17日(土)
- 参加者：3名。関係者2名。牧場関係者1名。
- 内容：
 1. 牧場の概要
 2. 繁殖経営の飼養管理技術研修
 3. 自給飼料生産技術研修
 4. 山口型放牧技術研修
 5. 意見交換会



意見交換



繁殖牛飼養管理の研修



自給飼料生産技術の研修



山口型放牧技術の研修

キ <美東町 Aファーム>

- 日時：平成19年11月23日(金)
- 参加者：3名。関係者4名。牧場関係者5名。
- 内容：
 1. 牧場の概要、法人経営の概要
 2. 哺育・育成技術、肥育技術、繁殖技術研修
 3. たい肥処理技術研修
 4. 製造粕飼料の研修
 5. 意見交換



哺育技術の研修



育成技術の研修



自家配合飼料について



たい肥処理研修

(3) 子牛市場視察・意見交換会

- 日時：平成19年12月10日(水)
- 参加者：今年度受講者7名。昨年度受講者2名。初年度受講生1名。関係者16名。
- 内容：
 1. 山口中央家畜市場 子牛市場での流通視察
 2. 肉用牛飼養に係る支援制度説明(県畜産振興課 米屋主任)
 3. 牧場実習の概要報告
 4. 意見交換(山口農林事務所畜産部会議室)

<主な意見>

就農認定について

- ・ 認定は必須ではないが、資金を借りる時に必要。
- ・ 水稻や野菜で認定を受けている人が牛を飼う場合、市町へ変更手続きが必要。
- ・ 年齢に応じて、貸付額の制限が出てくる。

農地購入について

- ・ 農林公社が農地保留合理化など税制上有利な仲介を行っているが、お互いに合意が取れている農地・林地が主体であり、斡旋までは行っていない。

意見・感想

- ・ 3ヶ所実習に行った。これから牛舎を作るので大いに参考になった。
- ・ 2ヶ所実習に行った。農家の話をじっくり聞くことができた。夫婦で牧場をやり、牛に関係する仕事をする将来設計に役立った。
- ・ 3ヶ所実習に行った。牛舎構造など具体的に説明が聞けて参考になった。
- ・ 一期生。土地を購入し、牧場を始める準備を行っていたが資金面のハードルがたかかった。まだチャレンジする。
- ・ 昨年受講生。9月に経産牛を2頭購入。入門講座で視察に行った牧場の放牧経験牛であり、1頭は発情がきたので授精をしてもらった。隣家の無いところであり、耕作放棄された水田もある。自宅を5年かけて建築し、現在牛舎を作っている。牛購入のきっかけは放牧経験牛を廃用するからの紹介。
- ・ 昨年受講生。自分が住む集落の上には耕作放棄地が増え、そこで牛を飼いたい。

<牛を飼い始めるにあたって>

これまでの入門講座参加者の中には、既に牛を飼い始めた方も数名いる。今回参加された昨年受講生も平成19年9月に2頭の和牛を導入している。上記で紹介しているように、放牧経験牛を2頭がベストである。10産近い高齢牛であるが、飼料の給与量や内容を確認し、実践、さらに、発情を確認し人工授精士に依頼することから経験を積んでいくことが必要となる。受胎したら、次は分娩、哺育管理、子牛育成管理と順番に技術を経験することとなる。このように、ゆっくりと技術を高めることが基本であると考えられる。



セリの視察



セリの視察



肉用牛飼養の支援制度



終了証交付の様子



意見交換会の様子



案野専務のあいさつ